



たぞえ麻友



contents

- ご挨拶
- 10年の変遷
- 今年度の注目トピック
- これから目指したい目黒のこと



たぞえ麻友プロフィール 東京都目黒区生まれ。目黒サレジオ幼稚園、目黒星美学園小・中・高等学校(現:サレジオ国際学園世田谷中学高等学校)卒業。大学受験にあたり、早稲田塾(自由が丘校)にも通学。早稲田大学政治経済学部卒業。在学中、南アフリカで開催されたSDGs(持続可能な開発目標)に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)に参加。専門商社と経営コンサルティング会社勤務を経て、2015年目黒区議会議員選挙当選。現在3期目。3人の子どもの母。

連絡先 〒153-0065 東京都目黒区中町1-7-4
☎ 050-5473-2018 ✉ mayutazoe@gmail.com

ご挨拶

区議会議員となり、『Think Globally, Act Locally』を信条に活動が続けることができたのは、ひとえに地域の皆様からの温かいご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。皆様からのお声を政策に転換し、目黒区へ要望し、都や国に意見を上げ、政策提言に走り回った10年でした。

私自身、三人の子育てに奮闘しながら、また母の看取りを経験する中で直面した課題の数々が、区政への強い使命感となりました。『子育てを心から楽しめる社会を』という想いは、生活者としての実感から生まれたものです。また、大切な人のケアに向き合った経験から、『子育ても介護も大丈夫』と言える地域づくりにも力を注いでまいりました。

社会は今、大きな変革期を迎えています。あらゆる職場において人手不足が問題となり、地域福祉においても深刻な状況です。人がケアの仕事に集中できるよう、テクノロジーに任せられる仕事を拡大するべくDXや生成AIを推進してきました。一方で、区民の方々と区政を進めたいという想いからワークショップや対話を重視し、『テクノロジーと対話で課題を解決していく』という新たなスローガンで、区政に取り組んでいるところです。

これからも、生活に密着した課題により一層力を注いでまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

たぞえ麻友

10年の変遷

みんなで育む 目黒の子育て



●10年前、目黒区における子育て政策の課題は保育園の「待機児童」でした。2017年4月、目黒区の待機児童数は617名で全国ワースト3位という深刻な状況となり、保護者の方の「保育園に入れなくて仕事を辞めました」、経営者の方の「従業員が職場復帰できない」という声が寄せられました。現在目黒区の待機児童はゼロです!また、園児の置き去りや園内虐待などの懸念に対し、区による指導を強化してきました。今後も保育の質の向上に努めていきます。

●「児童虐待問題」への対策として、孤独な子育てを防止するための支援に取り組んでいましたが、2018年3月、目黒区内で5歳のお子さんが虐待により亡くなるという痛ましい事件が発生しました。これを受け、都への緊急提言や区議会による「児童虐待のない目黒を実現するための決議」を提出し、児童相談所設置への転換点となりました。今後、東京都が碑文谷に児童相談所を設置する予定です。子どもたちを守ることで児童相談所とすることを強く決意しています。

●「プレーパーク」の設置を辛抱強く提案しています。「プレーパーク」とは子どもたちが自由に遊ぶ公園のことです。子どもたちの心が開かれる場所として、実現を引き続き訴えていきます。

●小学生の放課後の過ごし方について、区内22校中21校で「ランランひろば」が実施され、校庭や体育館で遊べる環境が整っています。実施日や時間の拡充、利用のしやすさについても改善が続けています。

●教育面では、学用品費の負担軽減、ブラック校則の見直し、中学校の評価基準の透明化などについて質問を重ねてきました。不登校者数の増加への対応や学校図書館の充実など、公立学校のあり方について大きな転換点を迎えており、さらなる議論を深めていきます。



10年の変遷

明日の目黒、 区民センターから考える



前回のレポートで「目黒区施設これからマップ」を描きました。その後、区は区民センターの更新を中止しました。当初398億円と見積もられた区民センター更新予算は、建築資材や人件費の高騰により、さらに94億円が必要との見解が出され、計画中止の判断が下されました。

この背景として、2015年に区から提示された「区有施設見直し方針」(2022年から30年間で約2000億円の施設更新経費が必要という試算から、施設の複合化・多機能化を推進し、40年間で区有施設の延べ床面積を15%削減を目指す)があります。

2022年度末での床面積削減は1.82%に留まっています(2017年との比較)。2025年度予算では中学校統廃合による校舎解体工事に42億円を計上。区債(区の借金)は今年度末は90億円ですが、5年後に約4倍の376億円となる見込みです。区は建築資材高騰の更なる上昇も考慮し、区民センター更新の影響を再検証し、2025~26年で「区有施設見直し計画」を再考することとしました。

私たぞえ麻友は、公共施設に必要な機能は「人が集う場」「憩いの空間」「きっかけの創出」だと考えています。そして、目黒区の財政を踏まえながら施設更新について引き続き意見していきますので、ぜひ一緒に考えていただけたら幸いです。



今年度の注目トピック

区・区議会の 見えない仕事

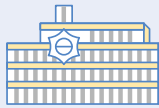


1) 道路陥没から守る、インフラ点検

2025年1月28日に埼玉県八潮市の道路が陥没し、トラック1台が穴に転落し、運転手の方が安否不明となる事故が発生しました。約120万人に下水道(洗濯や入浴)の使用自粛が求められるなど、大きな影響が発生しました。原因は内径約4.75mの下水道管の破損とみられています。東京都は国が要請した大規模な下水処理場に接続する内径2m以上の下水道管だけでなく、腐食するおそれの大きい下水道管についても緊急点検を実施しました。

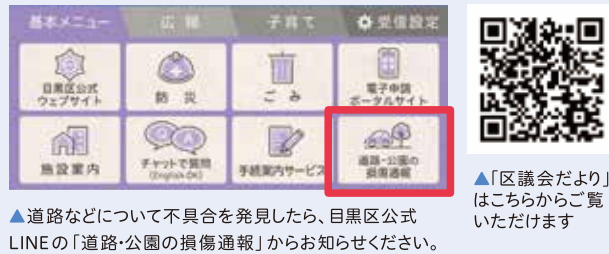
目黒区は日頃から延長約350kmある区道等を「道路舗装維持管理方針」に沿って、点検しています。特に交通量の多い道路67kmは5年毎に、その他の道路は毎年10kmを点検しています。

2) 身近な区議会を目指し、 新しい情報発信を進める



私は2024度、目黒区議会の「広報・図書室運営委員会」の委員長を務め、会議の進行役を担当してきました。この1年間、より開かれた議会を目指して方針づくりを進めてきました。議会広報誌「区議会だより」についても、より分かりやすい紙面づくり、公平な情報発信に努めてきました。また、X(旧Twitter)を活用して議会日程を発信するなど、新しい取り組みも始めています。

今後も引き続き、区民の皆様にとって身近な存在となるよう、議会からの情報発信を強化してまいります。



区議会議員 たぞえ麻友が

10年間に取り組んだ目黒区のこと、これから目指したい目黒区のこと

寄り添う支援

誰もが安心して暮らせる目黒区を目指し、子育て支援から高齢者福祉まで、あらゆる世代のサポート体制の構築に取り組んでいます。一人ひとりに寄り添い、地域全体で支え合える環境づくりを進めています。

- ①子ども条例を制定した先進的な区として、子どもたちの想いや声を政策に反映することに努めています。
 - (②別ページ「みんなで育む目黒の子育て」にまとめています。)
 - ③妊娠期から子育て期まで、途切れることのない支援を目指しています。産後ケア事業の拡充が進みました。
 - ④住み慣れた目黒区で最期まで安心して暮らせるよう、包括支援センターを中心とした相談体制の充実を図っています。
- また、在宅療養を支える看護・介護の担い手への支援強化にも取り組んでいます。

①スポーツと文化・芸術で彩られる目黒

②真のICT教育・性教育の充実

③行政事務の効率化

④時代に合わせた防災・減災

新時代に向けて

私たちは今、デジタル化の進展、価値観の多様化、予測困難な災害への備えなど、新たな課題に直面しています。これらの課題に向き合い、より良い目黒区をつくっていくための提言を続けています。

- ①生活の向上のために、スポーツと文化が活発な目黒区を目指します。直近では、ダンスによるまちづくり「MDC メグロダンスコネクション」が始まりました。
- ②教育のデジタル化については、ipadの大きさや視力に与える影響も心配されています。デジタルの適切な使い方をさらに研究していきます。
- ③デジタル技術で業務効率を進め、人による対応が必要な相談業務などにより多くの時間を割けるよう、新しい行政サービスの提供を進めています。
- ④防災・減災については、新たな知見を元に、有用性の高い施策を展開していきます。直近では、災害時のトイレの備えについて必要性を提言しています。

①子どもたちがのびのび過ごせる場所づくり

②子育て支援の更なる拡充

③出産前から不安のない育児のスタート

④最期まで目黒で過ごせる介護と看護

⑥環境に優しいまちづくり

①にぎわいのある街づくり

②誰もが働きやすい社会づくり

③誰もが行きたくなる、過ごしやすい公園

④わかりやすい区のお知らせ・情報発信

⑤区民と行政のコミュニケーションをもっと気軽に

つながる未来

目黒区の未来は、人と人、そして人と地域がつながることで育れます。公園という憩いの場づくりから、環境への配慮、区民と行政の対話を通じて、誰もが暮らしやすく、明るい未来へとつながるまちを描き、一步一步実現しています。

(①別ページ「明日の目黒、区民センターから考える」にまとめています。)

- ②スキマ時間に働くことができる超短時間勤務の提言をしました。誰もが気持ちよく働き続けられる社会を推進します。
- ③公園のリニューアルを進める中で、地域の声を聞くワークショップの実施が当たり前になりつつあります。今後も皆さんの公園と一緒にいきたいと思っています。
- ④区民と行政が協力してまちをつくっていくために、アンケートによる意見募集が積極的に行われています。今後、意見の集約やデータの活用などが進む見込みです。
- ⑤区報や区のウェブサイトのリニューアルが実現した後、更なるわかりやすさの改善を要望しています。また、デザインによる視認性も高めてきましたが、必要な情報が届いているか効果検証をしながら、更に改善していきます。
- ⑥カーボンニュートラルを推進しており、区の施設の電力は2026年度中に90%を非化石燃料由来電力にしていくな予定となっています。また、公用車の水素自動車への切り替えが順次実施されています。ごみの削減はまだ工夫が必要です。